

善知安方忠義傳

二編

貳

13
3237
10



へ 13
3237
10

善知安方忠義傳第二輯卷之二

緑亀館文庫

東都

松亭金水編次

第三回

鵬と射て重太郎禍と醸を
走卒とて高資知縣へ報く

蔵書印

粵小重太郎以下の三個の維多狼と退治して麓ある村長が宅にお
獵夫等小重郎の夜と射て家小飯王父小如此このふと流りあはく
渾身も勞まてまご其終歌うりるが耳の湯で置くとその髪を付け死
あがりまごの父の表小在王柿系松の庖小在王て朝餉の准故とありて
と。初て村長と獵夫等の知縣と狭し罵して居るあけが高資の雲時あり
て此方へある小重郎被三個も死出まごまご昨夜の功と勞ひて困極裡小懸
る權子より自ら糸と汲て進めお方達今度まごめや知縣の計らひ

昭和十一年七月九日 東京

悪しとて人々大小憤り居まり。凡そ人の上小ありの所も、
 人とは治めざり。知縣荒砥が如きとて酷吏と号て虎狼より猶怖るくその害
 深し。這田の二挙重太の固より。お才達もその賞を貪らんとてのりありあつねと
 容易人民の害を除くの大なる功ると腹黒くもことと賞せび。まご豹九郎が
 雑言吐て吾を釣んとするの。汝さほ細のありあると必慮せび。て吾もが
 小怒りてと含むとて其虚小なり。て彼輩が必小壺小陥はべ。假令この
 上豹九郎等或ひの非礼の挙動と做し。まごの手と換え品と多々え喰うん
 ともよく必びて漫小手とる動りそ。と深く重太郎と滅めて。於て院の代衣
 戸より二口の劔ととり出。この在下世小ありとて索めて秘を考りしが。
 浪の才の詮方あり。脱小賣拂ひて父子が命の代小るさんと必ひしと。り
 この村長の情小ありて。竟小衣食の便とゆまま。その情小秘かこり別是

と兩個へ進らと。元來在下の持料あり。よは物ありあつてまご。りかへ人まは
 が中小後來重太郎の佐とも。なるべこのの足下等より。依ありありと縁と必
 へば。この好意と表するの。この全く這田の賞る。どいありあつて。今まごの
 よこおちもあ。その情小あり。まご。あつて。持せり。このひけま。里見
 金井の兩人の必ひも。けぬこの賜小互小眼と眼と。んあ。せて。おの。免角も
 いと。り。良あつて。里見金井額着て。ひ。吾們。さ。せる。功も。あ。目
 大恩と稟る。十分。ごも。報ふ。と。平生小先生が。厄小の。こと。あり。才と
 以て。争う。が。賜りの。と。受。さ。や。鵠恩の。辱。と。骨小。肝小。銘。生。世。に。れ
 ち。は。た。な。この。佩刀の。ま。づ。納。め。わ。さ。あ。折。も。あ。其。附。こ。を。揚。り。あ。と
 ほど。扱。へ。額。着。る。ま。ご。の。戻。せ。ば。高。資。い。ら。ち。笑。て。その。辞。退。の。さ。る。り。あ。畢
 竟。常。言。小。の。君。と。あ。の。才。と。ま。ご。の。及。理。あ。て。在。下。今。の。年。老。て。ま。や。裁。干。の。勝

女萎すゐまてわろわろの生なまぬのささと見みせしる野の色のささまいと奥おくあままぶ重ちゆう太たい
 郎らういい益えき胸きゆうあままひてまま処じょ等とうの氣き色しきととううちち保たへめて春はるの野の小せう養やうるる維いみと
 狩かりんととて弓ゆみ携たづええまま出いででるる乃すなはちちてて禰にるる荷か助すけ小せうああひひそのそのとと物もの語ごと
 はは小せう夫ふうここををいいとと奥おくああままぶぶととううちち連れんざざららてて山さんへへののとと此こゝ方かたはは方かたせせううち
 瞻せん望ぼう名なめめああのの方かた人ひとああるる。此こゝ処じょ等とうののささままとと三さん十じゆう一いち文ぶん字じ小せう綴ずいアアてて奥おくとと信しん
 ぶぶささ小せう鄙び育よくのの吾われ們らのの風ふう雅やうう術じゆつととままるるをを動うごままささぶぶ川か狩かり山さん狩かり或あるも
 腕うで押お辻つ角かく觥かうとと荒あくくままささるる業ぎやうととのの朝あさるる夕ゆふのの奥おくととままるる。陋ろうききのの
 限かぎままるるののとと歎なげ息いきままるるとと荷か助すけのの受うてて宣のたまひひをを是こゝここ武ぶ門もんああ生うままれ
 一ひと勲いさなああてて詩うたうう管くわん弦げんととりりてて不ふ化くわととままるる青あお侍さむらいととのの齊いっ一いつららいいびび今いま小せうああままと
 朝あさ敵たてああどどののたたままをを心こゝろががささううのの村むらのの春はるくくもも一いつ天てんのの君きみよりより吾われ等らとと召よるるのの則すなはちち特とくと
 ああのの小せうああままととぶぶややかかののううららとと詩うた作つくるる人ひと箇いっ様ぱうのの節ふしのの要えいああののととこれこれはは武ぶ士し

和わど世よ間ま小せうままぶぶととののいいるる。とと輒たち然ぜんととううちち笑わらふふ重ちゆう太たい郎らうももままととううちち笑わら
 ひひ々々祖そよりより下くだととええちちららせせばば形かたのの差さ州しゆうととままぶぶ記き妻さいやや恋こひらんらん不ふららううのの
 雉けい子このの声こゑのの吹ふゆゆままぶぶととああをを祝いわええ金かね井い姓せい雛ひな小せう雉けい子このの声こゑととううりり。性せいて
 二ふた三さん羽う射や尚なほああんんとといいふふ小せう荷か助すけもも夫ふうととままよよけけまま太たい来らいくとと略りやくとと索さくめめ形かたてて藤ふじへ
 ありありままてて雉けい子こととああささううそそ処じょ彼か处じょ限かぎ里りももままるるぬぬ草くさ形かた亦またもも踏ふみ躅じやくでで在ありりがが
 暴あれれ小せう山さん上じやうよりより大だい風ふうのの吹ふ頻しきりるるがが如ごときき音ねととままぶぶ二ふた個ごのの鈴すずとと作つく向むか小せうのの音ね何なに
 とともも分わかががままぶぶががささくくとと鳴なををささめめくく。ここのの何なにああんんととううららううちち小せうとともも和わ暖ぬるみ
 一ひと點てんのの雲うみととああるる一ひと大だい虚きよのの忽たち地ぢ黒くろ雲うみととちち霞あせひひ宛あや然ぜん暗くろ夜や小せう異いああるるてて僅わずか小
 尺せき尺せきのの間まももええ後ごはは了りやう得とく剛ごう氣きのの重ちゆう太たい郎らうもも荷か助すけもも俱おそろ小せう駁ばつとと呆あはままてて何なに付つけ磨ら
 いういう不ふせせりりままぞぞとと入い雨あめ雲うみありあり重ちゆうるるとともも斯かくままてて暗くろささみみややののああるる此こゝ処じょ等とうののああらら
 るる此こゝ処じょ等とうののああらら。彼か天てん物ぶつととちちんんののああららるるももままるるぶぶ弓ゆみ箭やのの武ぶ器きの

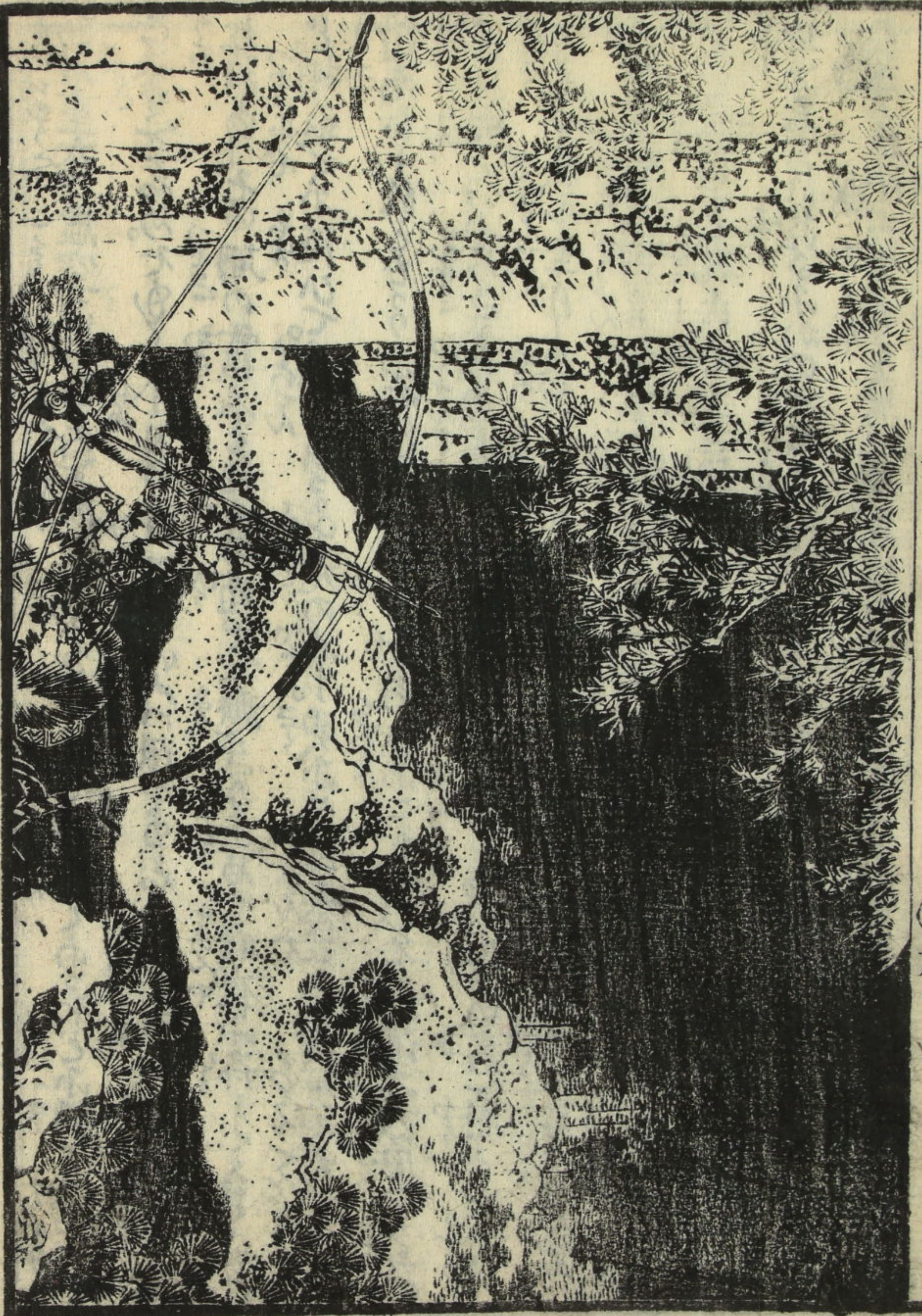
善知録二轉卷之二

冠すりの悪魔降伏の物とさく。僥倖其処小持り人ハ空小向ひて放ちり人。
 と荷助がのへバ実小示るり。と重太郎ハ弓小矢番ひさうくと膏紋王大
 虚へ切て放つ小。その矢小少しと谷へあり。小小をまこと点臥てまこと矢さうち
 番ひ満月のとく膏紋王誓一猶縁て切て放つ小。元来暗夜小異るる後ハ
 その性さたの知るあり。兔角まらうちまごがさくと壁にさち込る竹
 藪と救多のへそ震ふ如き音のきけるが秘もあせし傍より晃と
 日の光に彰ま出黒雲のごごりの雲帆うちうけし船より早く小の方へ翔
 泳と見えし樹の梢小隔らま忽地小をえびるありて元の曉天とさうらまは
 兩個の互小教えあのせて。人も海へぬ山中あゝ種々の怪異ありと。物の本
 小も記しるが。その平生ある山路あてかろりの岐ごも及むびよりや小
 語るとも。実とまらんあうまらび。実小奇異あるるぞう。尙小足下が

詞小任せ大虚へ矢を射しとさ甲の矢ハ何とるく物小中まる公地せり。しの
 矢のさるるあり。尙や天狗の所為あるん必一矢のまらるるんとて
 荷助の訝りし小。その音此方の心の中るるありあうまらび渠ハ神通自
 在あて。伯耆の大山加賀の白山まこ下控るる二荒山上控妙義榛名の山或
 ひハ陸奥の金佛山京洛で愛宕鞍馬山紀の玉高控甲及び延名する勝
 地名山と。一日小花けすといふ怖しきものありと争んばの矢小中らん
 若徒らんあゝの奇怪あり。天狗あてのありし。その鬼もあまこの時迄
 小容は難みと射て慰まんと思ひし。のを傍らと難みも何地へり飛去
 り。今より尙小飯でまん。和るのり小名をやといふ小重太郎も占臥て在
 下も控こそいふ人をも退らんとうち連ごら。家路とさして飯でる。當下西條
 高次真の門を不出て四方八方を瞻望ち在ける。兩個が飯でるを以て莞

示や小うち笑こつ。金井姓も俱小佳。今日ハ不意の怪異ありて。獲物中大
 うころりつゝんとて。皮を剥いて。高資の点取て。お月達ハ山路をりの。みとあふも。言理ある
 詞を拵へて。河原向へ。高資の点取て。お月達ハ山路をりの。みとあふも。言理ある
 ぶより。や彭祖が八百歳の寿ハ保つとも。まご遭ぐ。此未嘗有の珍み。こそ你達
 由縁もさつん。といふ小荷助ハ進みより。今。飯を踏ま。も天狗あふ。この不為なる
 べ。と大方小推量せ。先生の家小在。て。知りあふ。この異。河原。備まこ
 此処。お月。まを。その怪異のありぬ。やと。信理ま。之ハ高資。か。凡そ。日。廿の。廣
 一といふ。と。恐らく。漏洩。あ。あ。ト。さ。あ。小。こ。そ。目。この。寫。より。も。猶。勝。り。一。こ。の
 あ。く。小。れ。さ。さ。り。て。例。玉。刻。る。べ。さ。の。あ。あ。後。ど。吾。の。その。縁。友。さ。い。さ。考。へ。お。記
 ころ。と。あり。尉。さ。み。が。治。る。个。此。方。へ。来。よ。と。先。小。さ。ち。家。小。送。入。ま。い。西。人。も。繞。て
 家。小。ま。さ。る。當。下。糸。柱。も。こ。ち。ち。て。登。る。こ。ろ。より。ま。と。徳。古。小。後。り。あ。ひ。荷

助ハ重大。虚空小向ひ。矢を放せ。ゆるむ。ま。物。信。て。あ。る。わ。ど。小。頼。て。高。資。へ
 と。へ。さ。と。あ。め。そ。も。く。今日。の。怪。異。と。い。の。限。里。の。あ。あ。大。空。の。空。を。飛。び。小
 籠。ひ。あ。り。その。翅。の。霞。ふ。と。日。の。光。を。遮。ぎ。う。止。め。て。暗。夜。小。存。し。く。あ。り。け。れ
 ど。翅。退。く。小。は。ひ。て。晴。天。あ。る。元。の。如。し。更。小。と。ま。天。登。る。小。況。や。天。行。ま。あ
 所。為。る。小。び。と。さ。り。小。て。の。疑。ひ。あ。る。ん。ま。づ。試。小。と。ま。せ。つ。ま。北。溟。小。大。魚。あり。その
 名。を。鯢。と。い。ふ。大。さ。さ。義。あ。る。る。と。さ。る。奇。化。し。て。多。と。あ。り。て。その。名。を。勝。と。い。ふ。飛。の
 翅。ま。ご。八。千。里。り。怒。り。花。と。た。の。更。小。登。天。の。雲。の。如。し。と。この。遊。ぶ。の。説。と。こ。ろ。
 さ。い。ま。遊。ぶ。の。寓。言。あり。と。信用。せ。ざる。人。も。あ。り。と。ど。既。小。瑯。琊。代。醉。小。も。鯢。の。実。小。在
 ぞ。と。裁。ら。ま。孔。氏。志。小。也。楚。の。文。王。古。今。無。類。の。鷹。と。は。さ。る。小。虚。空。小。物。あ。り。て
 形。を。さ。る。小。び。花。の。小。か。の。鷹。を。飛。遊。ぶ。須。臾。あ。る。と。羽。の。墮。る。と。定。の。雲。の。降。る。と。血
 の。灑。る。と。雨。の。也。且。く。あ。つ。て。大。鳥。地。小。墮。て。死。ぎ。う。け。り。その。雨。の。翅。と。度。る。小。鷹。と



豊太郎

騎十力



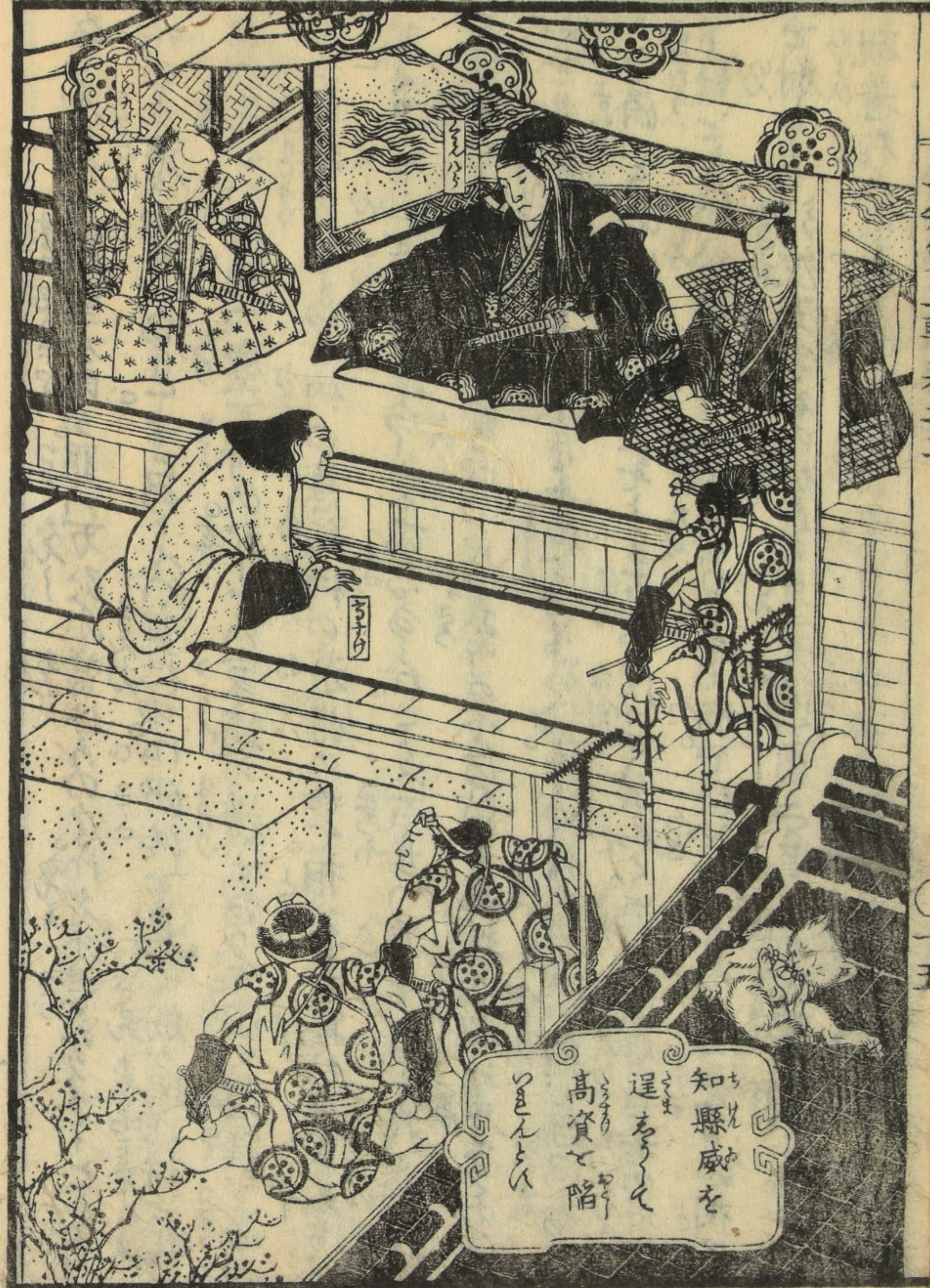
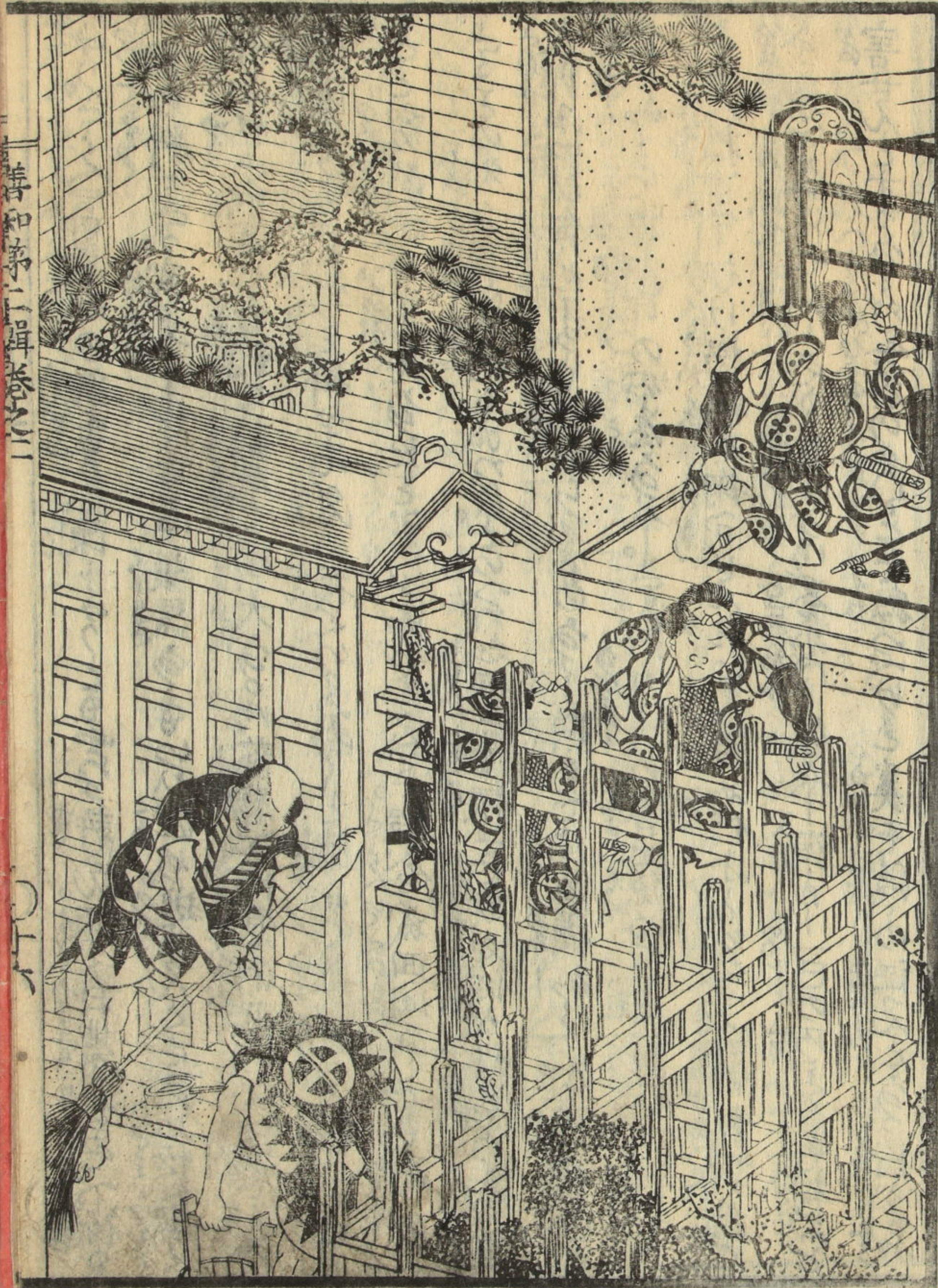
怪小遣
一條の
遠矢を
放ち
礮を

左に走り右に突進して撃つが如し。虎乱青眼波の月影の翔る如し。此処に居るといふは彼処に頭を刺し、刺しと削りて火を教らし。五十余合の奮撃突戦の如し。唯雄も分たぬさうさ。荷助の遙小と見て、彼一丈の如し。と焦燥自ら心を勵まして、漸く小を打つ。三息を切きて、吾も平浪伏す。さき心地はまよひど。かく女を敷て、后をまて、人の矢ひの程をんと、倭槍はと。踊る如し。兩個が傍へをよせて、吾子よ、氣強う、ひひく、金井荷助、不在。いざ助を力と系せん。といひ、すゝと引抜く。三尺半の氷の及、兩個が合はせ、切先の、中へ丁と突出し。右を搦ひ、左を打、挑と戦ふ。勢ひの長途、小旁より、のりぬ。日來、手練の、劍法、素まじ。その、小づ、人等も、おひく、小をり、を、つぎ、つぎ、ひの、楸、藤、梅、竹、槍、おひひく、小引、提、言、得、物、と、持、て、盜、賊、が、前、後、右、左、と、お、つ、り、捲、多、勢、と、勢、力、小、使、さ、ま、敦、圍、て、お、て、か、る、城、の、ま、ご、猛、

といども、初大勢、小勢、を、ま、ま、及、び、難、く、や、お、ひ、り、ん、透、と、見、あ、せ、取、捲、る、農、人、們、と、代、え、り、小、跡、跡、ま、と、逃、て、ゆ、と、重、太、所、の、猶、道、さ、と、と、跳、り、あ、つ、つ、と、泣、お、ま、お、七、荷、助、の、急、ご、お、止、め、馬、の、難、り、取、戻、し、り、逃、る、る、逃、る、る、跡、逐、ひ、向、て、何、あ、せん、と、小、遠、ぬ、の、城、を、め、侮、ま、ご、た、壯、夫、あ、つ、小、の、過、あ、つ、六、腕、と、唾、と、も、と、の、甲、斐、あ、止、ま、り、あ、つ、と、制、ま、ご、か、り、と、怒、り、と、鎮、め、り、太、刀、と、室、へ、納、む、し、と、小、人、等、の、重、太、所、が、あ、へ、来、り、て、顔、着、り、今、小、始、め、ぬ、ま、あ、つ、和、子、の、お、蔭、で、一、解、の、威、さ、ぬ、墮、さ、ぬ、辱、あ、つ、と、小、今、日、の、馬、盜、人、も、あ、つ、く、尋、た、ぬ、の、城、あ、つ、と、ど、の、頂、世、間、の、言、小、さ、ひ、の、阿、蘭、梨、太、所、の、山、賊、の、一、本、曾、山、小、寨、と、構、え、を、と、併、御、あ、ひ、す、勿、論、屋、下、も、多、く、と、中、小、の、一、人、當、千、の、勇、士、も、雜、居、る、の、と、か、あ、つ、と、交、差、の、類、ひ、あ、つ、ん、恐、れ、ご、和、子、の、勢、力、を、辛、さ、る、え、ん、せ、て、逐、遣、し、ま、ご、懲、て、再、び、と、い、来、り、後、お、こ、と、あ、つ、と、み、な

一同小飲びのみ。和子の賜あれが馬主の何某の。その飲び小一献と
あつせりたともあつ。まゝのりあや貴客の和子と諸共ふは傍せりよ。
と荷助小の會釈さまの重太郎の微笑てその辱くゆれども父と姉とつ
ちり侍仕て在りせん小一割の早く歸りしその馬主への休ませり。程よく
お見ゆ人と辞とをりんとお見ゆも。和子の尚許さば尚も宿の氣小かりあつて
あふ吾們が有りて其よりす。と勧めり人の好気も黙止さす。と
さりとて兩個の和子も小誘りし。馬主のさしむる。恭とあつ。兩個と上座の
居り。尚の旁と厚く謝し折角極さる。せめてもあつせりあつ。その傍り
東西のあつ。その奥へ流りし。酒の製りの酒のあり。そのあつ。溪川の約
る。魚と黄瀬魚鮎鱈魚のあつ。そのあつ。肝のあつ。調理せせていり。と
したりのあつ。折敷小をせと持とてまごの信実ると。兩個のあつ。會釈

あつ。其の郷人の次の間より。板椽まき居流し。庭へ越と敷連ね。これ
小の敷多田坐して。置とて。酒散まら。食ひ碎てい。高調子訛る
奏とさうあつ。小唄と謡ふ。のあり。兎角とる。小黄昏て院の獨
然。庭へ田坐の。中。の。櫛と焚て。焼とひ。當下。兩個の。主人。謝し。外
飲待。酒。の。過。ち。判。限。さ。い。と。い。う。遅。く。あ。り。ぬ。え。や。那。や。え。と。い。ひ。と。主
人。今。昔。も。ち。の。蕎。麦。進。ら。せ。ん。と。急。ぐ。る。湯。の。湯。と。俱。小。沸。き。厨。温。の。混
雑。も。や。程。の。あ。く。仕。果。あ。ん。ま。ぐ。且。く。候。あ。ん。と。感。動。あ。る。小。絆。さ。ま。と。不。待。小。絆
と。難。け。し。の。ま。ま。坐。小。後。里。て。在。り。と。小。頼。り。て。蕎。麦。と。持。出。り。進。む。る。小。足。さ。も
合。ひ。頼。り。て。人。小。眼。と。若。り。と。あ。つ。え。し。ま。ま。去。の。夜。の。臆。あ。る。小。心。の。端。の。月。影。作
げ。ば。た。や。支。割。小。の。程。近。う。ん。と。足。と。さ。め。端。と。詠。歸。ま。が。柿。の。孤。燈。小。さ。り
む。の。物。仕。り。あ。る。景。勢。あ。る。小。重。太郎。の。術。と。入。り。て。唯。今。飯。里。の。公。多。の。何



知縣威を
 遅まき
 高資と陷
 といふ人

ありけり。良あつて約九郎さへ足下之故。倍と重太郎を將て来べ。此れ罪
 科の分明あり。其修めぬ。放ち難し。証文と認めよ。と現料紙をさうはくまへ。
 さいと易きものと頼り重太郎を召俱して。此後糸よのまへに。尚らあり。此
 あが。當国諏訪の大明神。其外日本大小の神祇の。此罰を被るべし。と認め
 せむ。とて。此を懸けり。今宵遅く。此の己の罰を限す。とて。必
 重太郎を伴ひ来よ。まより。遅るす。とあが。汝度へ。と。所放ち返す
 二刀を。受取て。今。由。飯。本。ま。る。こ。じ。熟。を。以。例。る。不。換。返。活
 の折約九郎が。難言。といひ。遠回。といひ。ま。糸。遊。が。持。縁。を。香。を。う。遣。恨。不
 あり。今日。此。不。若。と。扱。め。恥。と。あ。え。そ。の。鬱。憤。を。晴。る。欲。を。あ。る。り。い。が。妙
 り。是。を。受。け。憤。中。を。如。懸。と。雨。が。不。慮。の。災。害。あ。ら。ん。と。お。そ。ま。の。あ。の。計。ら。ら。び
 明日。汝。を。お。て。ゆ。へ。法。の。ゆ。へ。西。刀。を。あ。げ。矢。庭。不。捕。め。て。囚。獄。不。繫。を。ゆ。へ。七

見れ。吾小の辛。三月廿八日。と。被。為。る。意。中。の。計。策。の。遺。り。あ。ら。ん。と。ま。ま。で。能
 文。を。認。め。て。翌。己。の。罰。と。さ。め。ま。ま。び。計。ら。る。時。に。延。び。ま。る。と。向。ん。と。疑。ひ。あ
 免。て。も。用。て。の。吾。小。が。進。退。を。不。知。す。て。の。不。を。逃。早。く。退。り。他。の。あ。ら。ん。と。これ
 奸。智。不。閑。なる。収。束。り。さ。る。と。の。あ。え。ん。れ。と。四。方。の。お。り。人。遠。見。と。知。疑。ひ。あ。ら。ん
 疑。ひ。あ。ら。ん。と。父。子。と。個。う。ち。拵。ひ。て。退。入。の。便。あ。ら。ん。と。計。ら。る。時。に。明。ぬ。る。小
 糸。結。を。伴。ひ。て。澄。り。竜。が。鼻。洗。味。の。七。里。と。被。を。上。野。吾。妻。の。郡。の。草。津。の
 柳。へ。到。り。ま。る。鬼。石。左。近。友。興。り。と。恃。ま。り。被。処。の。足。と。注。べ。と。計。ら。る。時。に。翌。朝。縣。入。宛
 三。三。寸。不。乱。の。台。を。も。て。被。警。の。主。従。と。あ。ら。ん。欺。ま。る。時。と。移。り。地。着。下。伏。ま。る。里
 見。金。井。等。へ。も。是。を。ゆ。へ。二。大。率。を。ま。ま。送。り。在。ら。ん。と。深。夜。を。便。宜。と。計。ら。る。時
 あ。が。ら。ち。拒。免。條。の。様。と。物。落。を。ま。ま。不。因。て。ま。ま。と。援。入。と。あ。ら。ん。草。津。の。柳。鬼。石
 と。ま。ま。と。被。免。人。心。得。り。や。と。拒。免。の。動。靜。を。ま。ま。の。計。策。を。ま。ま。と。被。免。人。心。得。り

小説示せば系遊と重太郎の交り毎小成ひの怒りて齒を切す且嘆歎せんと
 するも。當下系遊の小膝を進め不來る身と愛させ多し不心人の妻あり
 せど。と作らる不問てめん身のものまゝ重太郎の身の上もよき事ありの末
 小けり妻の女のことありて在る甲斐ある死あるを恨令不願の人不嫁すとも。ま
 どの昔患のあつてさうす。すまき昔患ありてこのまゝ路の幸不幸あてむじ
 より賢女才女と称するもの由幸あつて敷と溝瀆野位小曝し終了を克せぬ
 のもの妻と浮川竹の流し不沈と我同胞と救ふものあり。是時の難易小よ
 じ。さのそ小歎く筋小ゆきま。願ふもの身を和縣へ送る。その縁と結ぶる
 づ。和縣も忽地怒解て父子二個小奉放る。安らる小世を送らん。是れ小倍
 するといふ。ト喃重太郎の心とさうさ善とさう。諸共小夢と勧めて此計らひ
 終といふと高資のあふむと左をくち揮て你が因の珠筋の理ある小

小似いどどの。いよひ一向兼討ど凡七活とくするもの。子と愛まぬりのやある。
 その見の爲小良縁と結び榮ゆ末とんんとあひる。あての人の情願
 さのいよ。智ある才覚小も及びが。此の貧窮ゆてめ何とも憐れあけまこと若
 と不善のそ小異あり。よりや陶朱公石崇小猶一倍せる富ありとも成ひ
 誇り且罪咎小。まゝ。兇悪の心あつて。ことを失ふ身残の雪の日影まの
 間小異あり。まゝ。孫晨が粗薦小夜寒と凌ぐ。方さも志しの高けれ
 ば。挙て称讃するが如し。こ小知縣が殊毒无頼常小民の膏腴と絞めて。
 け。燈火と耀らす。世小いと稀ある。酷吏して苛政の人と傷ふと虎狼と
 なる。先哲脱小の遺り。いよ。愛する瘰子とめて。虎狼小ふえんやう
 公中の脱小決せり。无益の談論小時と後して。物事明小む。が便しとら。そや
 頓と促すと。重太郎兼て作小懐る。あてのゆゆと。小も。是れえぬ。満
 腹

